

所 管 事 項 調 査

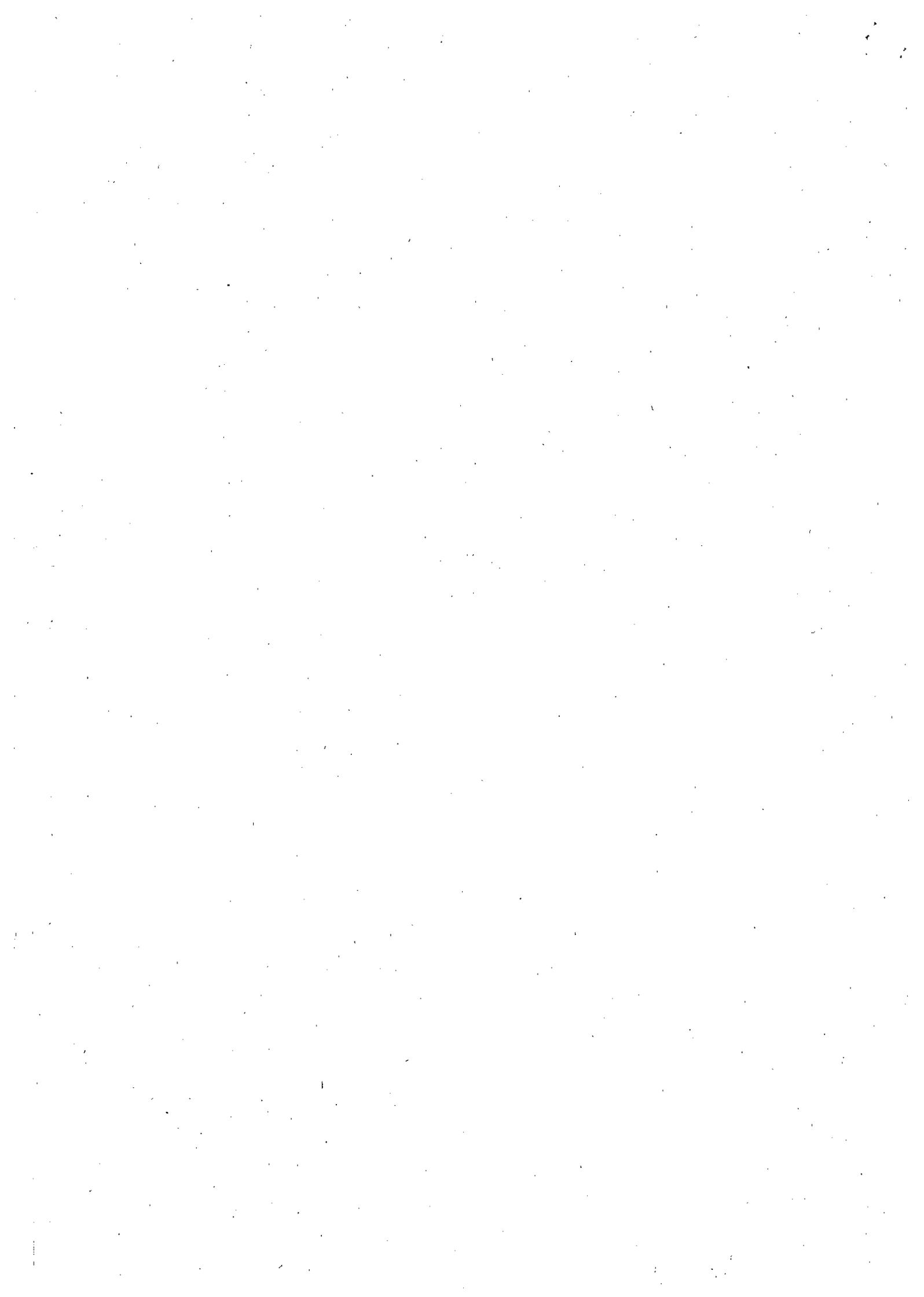
< 目 次 >

- 1 第2期長崎市教育大綱の策定について P1

企画財政部

教育委員会

令和3年11月

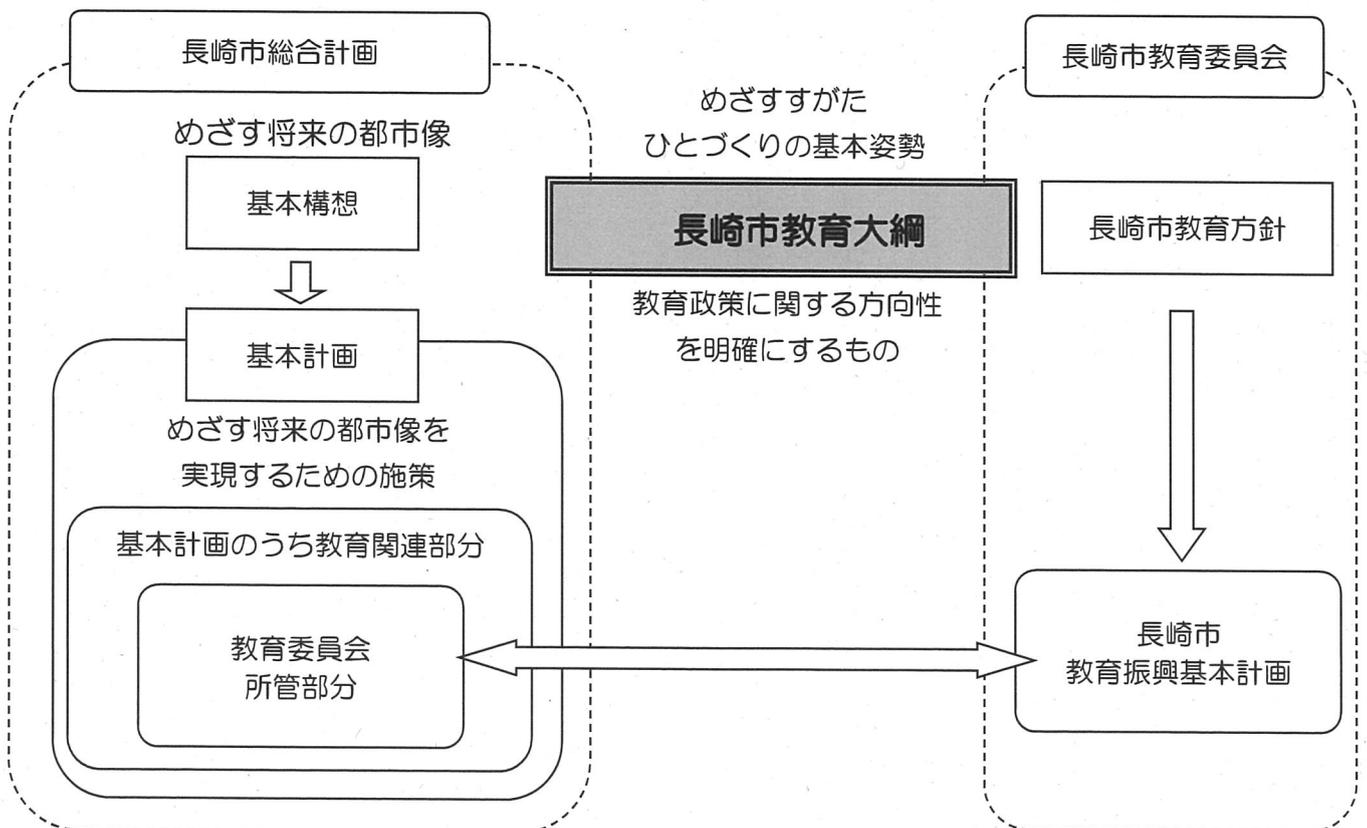


1 長崎市教育大綱の位置付け

地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされている。

長崎市教育大綱は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる世界都市」という将来の都市像の実現をめざし、未来の長崎を担う人材育成を進めるにあたり、教育に関する方向性を明確にすることを目的として策定している。

なお、「教育大綱」を定め、又は変更する場合は、地方公共団体の長及び教育委員会により構成される「総合教育会議」において協議することとされている。



2 計画期間（総合計画との整合を図る）

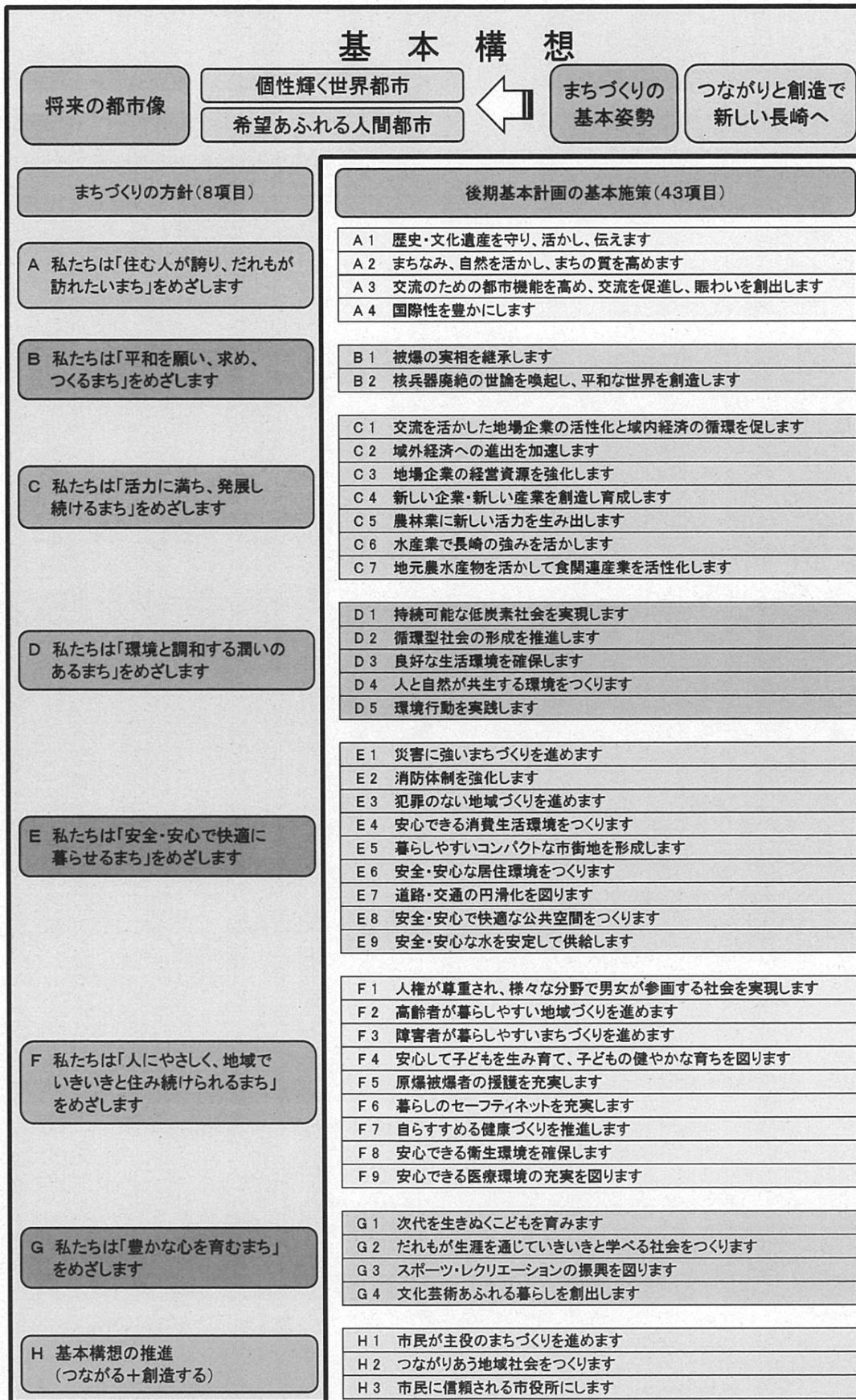
第1期：平成28年度～令和3年度（6年）【第四次総合計画後期基本計画期間】

第2期：令和4年度～令和7年度（4年）【第五次総合計画前期基本計画期間】

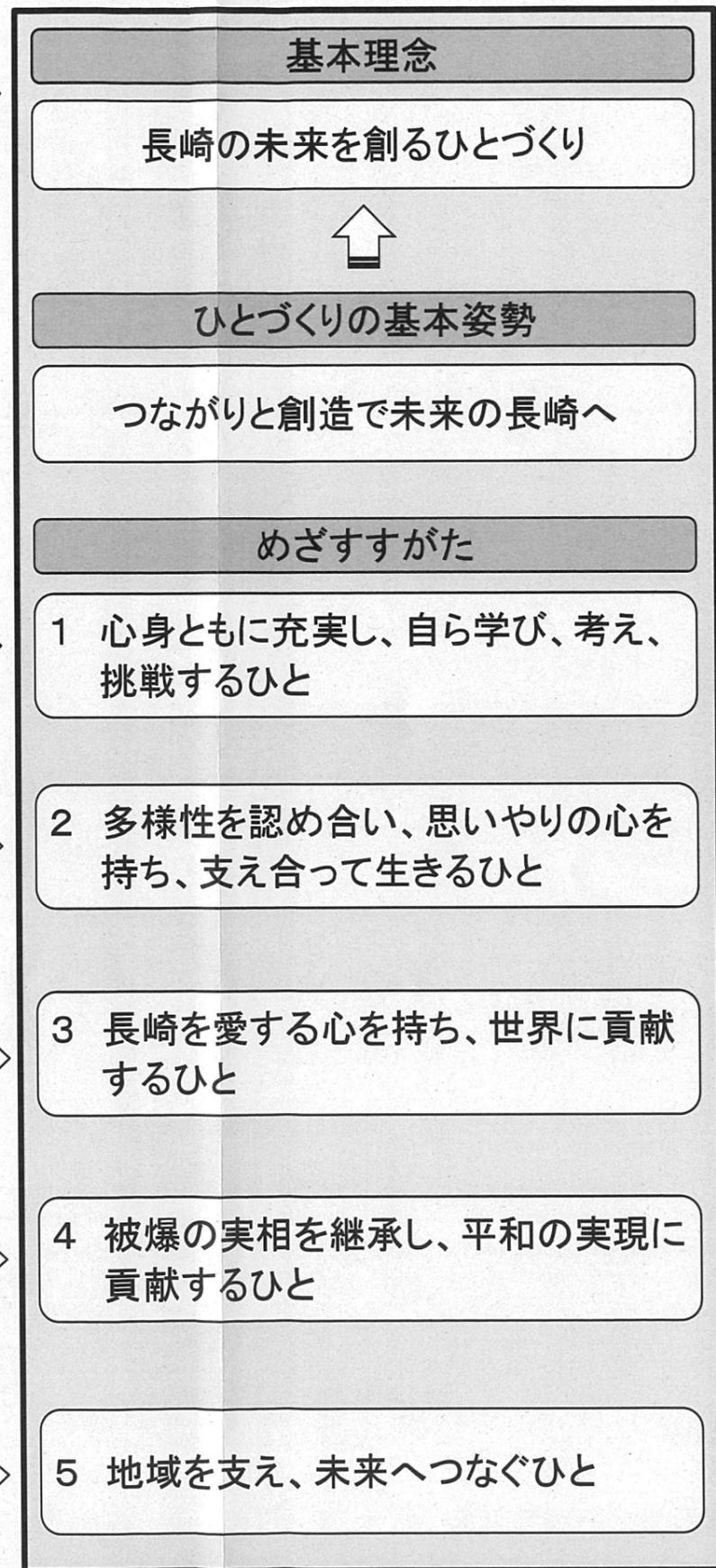
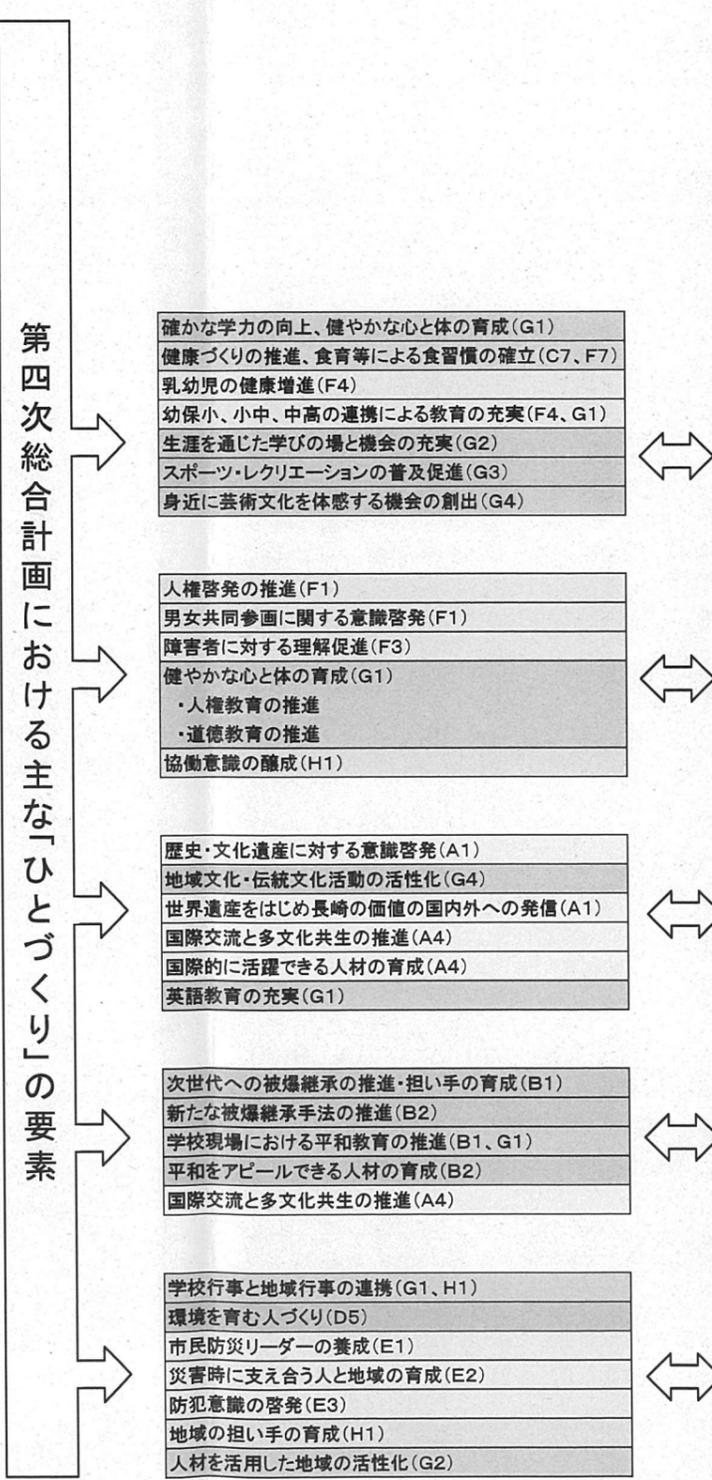
3 「長崎市第四次総合計画・後期基本計画」と「第1期長崎市教育大綱」について

長崎市第四次総合計画・後期基本計画(平成28年度～令和3年度)

第1期長崎市教育大綱(平成28年度～令和3年度)



将来の都市像を実現できる
人材の育成



長崎市教育大綱

平成 28 年度（2016 年度）～令和 3 年度（2021 年度）

平成 29 年 1 月

長崎市

はじめに

グローバル化や情報通信技術の進展などにより世界全体が大きく変化する中、長崎市を取り巻く社会環境も、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等、急速に変化しています。

このような変化の時代を乗り越え、長崎のまちを次の時代に引き継いでいくためには、長崎のまちを構成する多様な主体が力を合わせて取り組むことはもとより、変化し続ける日本や世界の状況に柔軟に対応できるよう、次の時代を担う人材を育成する必要があり、教育の振興はその最も重要な役割を果たすといえます。

一方、子どもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化しており、子どもの健やかな成長を妨げるようないじめや虐待等の人権侵害、子どもが被害者や加害者になる犯罪、貧困等、複雑化・深刻化する問題の解決をはじめ、不登校やひきこもり等、学校や社会と関わることに困難さを感じている子どもの支援のためには、福祉や子育ての分野に限らず、あらゆる分野が一体となって、子どもの成長を支えていくことが、これまで以上に必要となっています。

このような中、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日に施行され、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされました。

現在、長崎市は、長崎市のまちづくりの指針である「長崎市第四次総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎市における教育に関する方向性を明確にすることを目的として、「長崎市教育大綱」を策定いたしました。

「長崎市教育大綱」では、長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、未来を担う子どもや若者を主役として、「めざすすがた」により表現しており、あらゆる分野において、長崎市の関係部局と教育委員会をはじめ、学校、家庭、地域等の様々な主体がしっかりと連携して人材育成に取り組むことを示すことにより、長崎市における教育、学術及び文化の振興を推進していくこととしています。

基本理念

長崎の未来を創るひとづくり

異国情緒漂う独特の文化を持ち、長い歴史の中で様々な経験をしてきた長崎のまちは、それぞれの時代において、まちに関わる多くの「ひと」が創り、受け継いできたまちです。

これからも、長崎が希望に満ちた魅力あるまち、また、日本や世界に貢献するまちであり続けるためには、これからのまちを創り、次の世代にしっかりと引き継ぐことができる「ひと」を育むことが最も重要です。

そこで、長崎市の教育に関する方向性を示す教育大綱の基本理念を「長崎の未来を創るひとづくり」としました。

ひとづくりの基本姿勢

つながりと創造で未来の長崎へ

ひとづくりは、学校や行政だけでできるものではありません。多くの主体同士がつながり合い、個々では生み出せない大きな力や新たな発想を活かして取組みを進めることで、より大きな成果につなげることが期待できます。

長崎のまちが一体となって、一人ひとりに向き合い、個性や課題に応じたひとづくりに取り組みながら、長崎のまちを未来へと引き継いでいきます。

- (1) 学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野においてつながり合い、多くの市民が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。
- (2) つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちや学びを阻害する要因を解消するとともに、新たな教育の機会や仕組みを生み出し、時代の変化に対応したひとづくりに努めます。
- (3) 育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。

めざすすがた

1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと

社会環境が大きく変化し、複雑化、高度化する中、これからの社会を生きぬくためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。

また、幼児期から生涯を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、夢や希望に向かって挑戦する力や、自分で課題を見つけ、自分で解決する力を育む必要があります。

- (1) 基礎的な知識・技能や、それを応用するための思考力・判断力・表現力、主体的に学ぼうとする学習意欲を身に付けたひとを育てます。
- (2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。
- (3) 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出せるひとを育てます。
- (4) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。
- (5) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。

2 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、一人ひとりがお互いを認め合うことにより、人と人との絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。

- (1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを育てます。
- (2) 自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。
- (3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。

3

長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと

海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。

また、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、長崎にしかできない役割を果たすことで、日本はもとより、世界に貢献していくことが必要となります。

- (1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。
- (2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。
- (3) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。

4

被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと

原爆被爆から70年が経過し、被爆者が減少する中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。

また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。

- (1) 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。
- (2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。
- (3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。
- (4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。

5

地域を支え、未来へつなぐひと

人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域を支える人材の育成が不可欠です。

地域で育まれた一人ひとりが、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。

- (1) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育てます。
- (2) 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。
- (3) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。

大綱の期間

長崎市第四次総合計画「後期基本計画」との整合性を確保するため、同計画の計画期間にあわせ、平成28年度から令和3年度までの6年間とします。

4 第2期教育大綱策定スケジュール（案）

R3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会								 11月議会 (11/24~12/13) (教育大綱素案)			 2月議会 (教育大綱最終案)	
市民									 12月下旬~1月中旬 パブリックコメント			
総合教育会議	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき設置 ○市長と教育委員会をもって構成 </div>				 8月2日 第1回総合教育会議 (教育大綱骨子等)			 11月15日 第2回総合教育会議 (教育大綱素案)		 2月上旬~中旬 第3回総合教育会議 (教育大綱最終案)		 3月中旬~下旬 第4回総合教育会議 (最終報告)

5 「長崎市第五次総合計画・前期基本計画」と「第2期長崎市教育大綱」について

長崎市第五次総合計画・前期基本計画(令和4年度～7年度)



将来の都市像を実現できる
人材の育成

健康づくりの推進、食育等による食習慣の確立(C5、F7)
(健全な食生活、運動習慣の定着の推進)
子どもの健康の保持増進(F4)
子育て支援の充実(F4)
(子どもやその家庭の生活実態の把握と貧困対策の総合的な推進)
確かな学力の向上、健やかな心と体の育成(G1)
(Society5.0時代を生き抜くために必要となる情報活用能力の育成、読書活動の推進)
幼保小、小中連携による教育の充実(G1)

生涯を通じた学びの場と機会の充実(G2)
(Society5.0時代を見据えた情報活用能力の育成、
オンラインでの学習機会の充実)
スポーツ・レクリエーションの振興(G3)
芸術文化に触れる機会の創出(G4)

人権啓発の推進(F1)
男女共同参画に関する意識啓発(F1)
障害者に対する理解促進(F3)
健やかな心と体の育成(G1)
・人権教育の推進
・道徳教育の推進
協働に対する理解の促進と意識の醸成(H2)

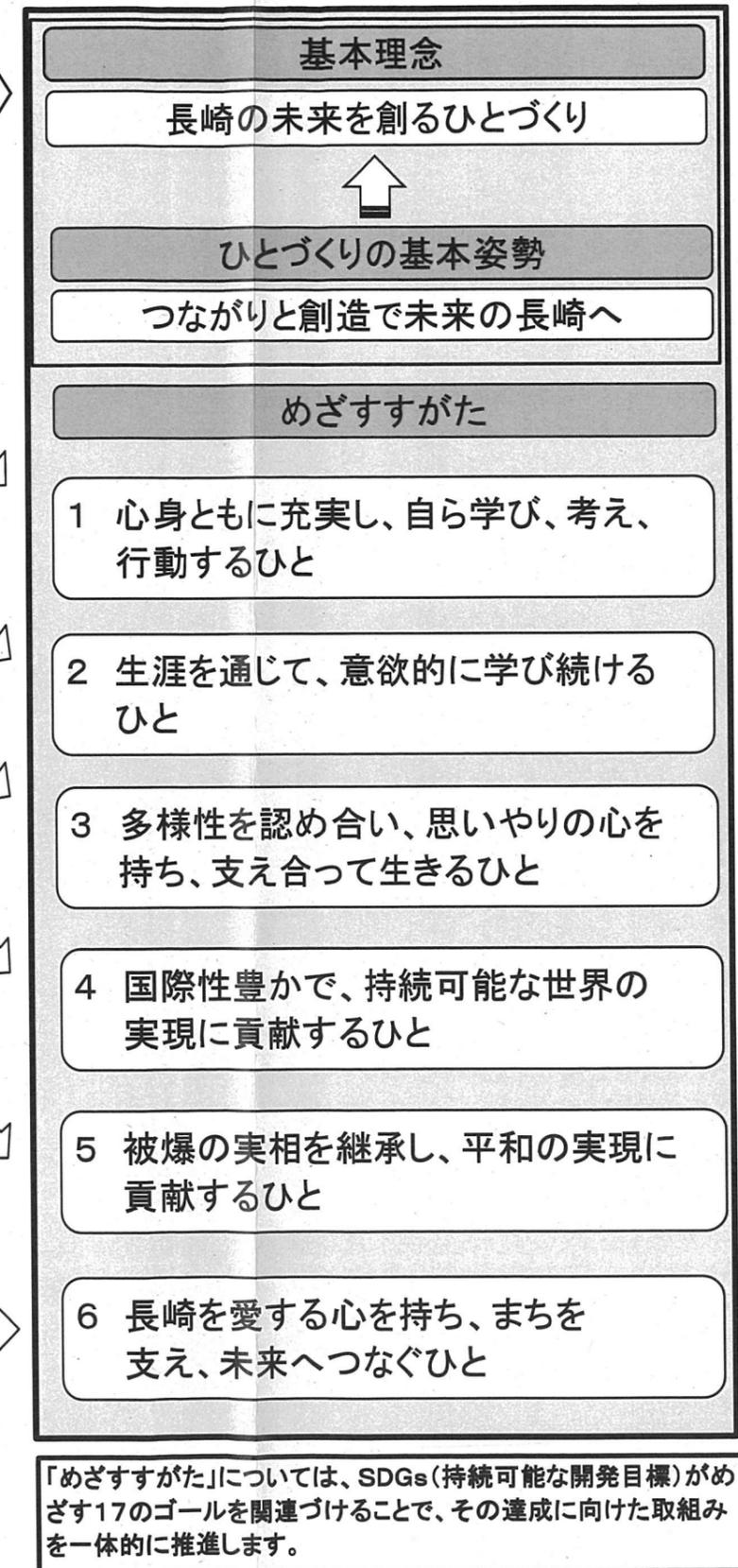
国際交流と多文化共生の推進(A3)
(小・中学生の時期から異文化に対する関心・理解を深めるための機会の設定)
国際的に活躍できる人材の育成(A3)
環境意識の醸成(D4)
英語教育・国際理解教育の充実(G1)

被爆の実相に関する正しい理解と平和の意識の醸成(B1)
次世代への被爆継承の推進・担い手の育成(B1、B3)
新たな被爆継承手法の推進(B1、B3)
学校現場における平和教育の推進(B1、G1)
平和をアピールできる人材の育成(B2、B3、G1)

歴史・文化遺産に対する意識啓発(A1)
世界遺産をはじめとする長崎の歴史文化等の国内外への発信(A1)
長崎ならではの食文化や食文化に対する意識の醸成(C5)
環境意識の醸成(D4)
市民防災リーダーの養成(E1)
地域防災力の向上と自主防災組織の活性化(E1)
防犯・交通安全意識の啓発(E2)
消費者教育の推進(E3)
キャリア教育の充実(G1)
(子どもたちが体験する場、体験したことを生かしたりするキャリア教育の場の充実)
学校行事と地域行事の連携(G1)
人材を活用した地域の活性化(G2)
地域の担い手の育成(H2)

第五次総合計画における主な「ひとづくり」の要素

第2期長崎市教育大綱(令和4年度～7年度)



6 第1期教育大綱の振り返り

めざす姿別の振り返り

1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと

- ・ 個々の児童・生徒の課題に沿った学習指導が行われているが、学力調査の結果においては、目標値を下回っているものもある。
- ・ 各学校における体力向上アクションプランの取り組みの成果が出てきている一方で、校内での継続した取り組みになっていない学校も見受けられる。
- ・ 老朽化した学校の改築、大規模改造を計画的に実施しており、教育環境の改善が図られている。
- ・ 全市立小中学校の普通教室や音楽室、理科室などの特別教室に空調設備を設置するなど教育環境の整備を図った。
- ・ 配慮が必要な児童生徒については、障害や特性に応じた特別支援学級や通級指導教室を設置し、充実した支援を受けられるようにしている。
- ・ 特別支援教育支援員を配置することで、障害のある児童・生徒の学習を含めた学校生活全般の支援を行うことができた。
- ・ 就学援助、通学費の助成、子ども医療費の助成対象を中学校卒業まで拡大するなど経済的援助の拡大が図られている。
- ・ 少子化、高齢化、人口減少が進む中で、芸術文化等の担い手不足や活動への支障などが生じており、生涯学習、スポーツ、芸術文化等を通じた仲間づくりや地域づくりなど更なる広がりが望まれる。
- ・ 教職員による電子黒板やデジタル教科書等 ICT 活用が進んでいる。
- ・ 教職員に対して、一人一台学習者用端末の授業への活用の仕方などを支援する ICT 支援員の派遣や研修会の実施、研究指定校からの情報発信等により、その活用促進が図られている。

2 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

- ・ 市民全体を対象とした啓発、地域の公民館などが実施する人権研修、子ども、障害者、外国人など対象を絞った研修など様々な人権研修の場がある。
- ・ 学校における「人権教育」、「道徳教育」により、生命や人権を尊重しようとする心が育っているが、さらに、違いを認め、多様性を尊重する人権教育の推進が課題となっている。
- ・ 価値観が多様化し、家庭や地域における問題は、複合化、複雑化しており、発達障害や医療的ケアが必要な子どもへの対応、子どもの貧困、子どもへの虐待などの問題が顕著化している。
- ・ 外国にルーツを持つ児童生徒の日本語指導や学習・生活面の指導援助及びその保護者に対する教育相談等を行うことで、言語や文化の違いにより学習や生活へ支障をきたさないように支援を図ることができた。

今後の方向性

1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと

- ・ 学力向上や健やかな心と体の育成に向け基礎的な取り組みの更なる充実を図る。
- ・ 基礎的基本的な学習事項の重点的な指導や学習指導要領に沿った主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が充実するよう研究指定校や計画訪問校への訪問指導や学力向上に係る研修を実施する。
- ・ 各学校の体力向上アクションプランについて再考し、評価の低い子どもを高めるための取り組みとする。
- ・ 長寿命化計画に沿って各学校の改築や大規模改造を実施し、老朽化対策を実施するとともに、教育環境の向上と施設の最適化を図る。
- ・ 配慮が必要な児童生徒については、障害や特性に応じた特別支援学級や通級指導教室を設置し、また、「合理的配慮」の提供に努め、引き続き充実した支援を受けられるようにする。
- ・ 引き続き特別支援教育支援員を配置し、障害のある児童・生徒の学習を含めた学校生活全般の支援を行っていく。
- ・ 経済格差に起因する学力の格差が生じないように、経済的支援が必要な児童生徒の保護者に対する就学援助を継続する。また、児童手当の支給や子ども医療費の助成など既存の経済的支援を継続する。
- ・ 生涯学習やスポーツ、芸術文化の面では、個々の体験や知識を通じてひとと出会う、つながるといった流れをつくる。また、市民が気軽に集まれる機会の充実を図るとともに、新しい生活様式を踏まえたオンラインでの学習の機会の充実を図る。
- ・ Society5.0時代を見据え、この時代を生きるために必要となる情報活用能力を育成する。
- ・ 一人一台学習用端末をはじめ、ICT機器の効果的活用を図るために、各学校での教職員の研修を進めていくとともに活用推進フロンティア校での実践を各学校に広めていく。

2 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

- ・ 全ての人の人権が尊重され、男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野で活動に参画できるよう、市民意識の向上及び学習の機会の確保に努める。
- ・ いじめの未然防止を含めて、違いを認め多様性を尊重する人権教育の推進を図る。またジェンダー平等や性の多様性の教育については、今後情報を収集しその取り組みを広げる。
- ・ 児童生徒が犯罪等の当事者（加害者、被害者、傍観者）とならないよう児童生徒の発達段階に応じた教育を推進する。
- ・ 結婚、妊娠、出産、子育ての全てのステージにおいて、また、あらゆる場所において切れ目のない支援の充実を図ることにより、子どもの貧困や子どもへの虐待をなくすとともに、子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進める。
- ・ 外国人が暮らしやすい環境づくりと日本人も含めた多文化共生のまちづくりを更に進める。

6 第1期教育大綱の振り返り

めざす姿別の振り返り
<p>3 長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎のまちが持つ個性の継承、活用に向けた取組みは一定進み、長崎に誇りを持つ市民は増えている。今後は、その魅力の発信と更なる資源磨きが必要である。 ・外国文化体験出前講座など、小中学生の時期から異文化に対する関心・理解を深めるための機会を設定している。また、国際交流員、外国語指導助手（ALT）を配置することで、異文化や言語に直接触れることができている。 ・英語によるコミュニケーションをとる機会は増えたが、国際理解教育に関するイベントやコンテストなどにおいては、参加者が限られる傾向がみられる。 ・市立中学校、高校が福州市の学校と友好学校協議書を交わし、オンラインでの交流や中国文化の理解促進を図り、国際性をもった人を育む取組みを行っている。 ・医学や環境などいくつかの分野では、長崎市における先進的な取組みに対し、世界からの期待が高まっている。
<p>4 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被爆者が高齢化し、「被爆者のいる時代の終わり」、「被爆者のいない時代の始まり」が目前に迫り、限られた時間の中で被爆者の実相を伝える取組みが求められている。 ・被爆者が高齢化するなか、平和をアピールできる人材が不足している。 ・多くの市民が当事者として平和について考え、行動する必要があるが平和活動の裾野の広がりが十分でなく、平和活動に参加する人が固定化している。平和について、身近なところから考え、行動する機会が少ない。 ・「被爆体験の継承」「平和の発信」「平和の創造」の三つの柱による新しい平和教育について、「平和手引書」と研究協力校の取組みにより浸透を図り、全ての学校で実践することができた。 ・児童・生徒への被爆体験講話や原爆資料館見学など学齢に応じた平和教育が毎年、計画的になされている。
<p>5 地域を支え未来へつなぐひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子化・高齢化、核家族化の進展などにより、地域の防災や防犯活動、交通安全活動の担い手が不足しており、地域の様々な団体と連携したまちづくりが求められている。 ・地域コミュニティ連絡協議会の設立が進み、様々な分野の課題解決や活性化に向けて取り組む地区がでてきている一方で、各団体の活動の周知や人材を育成するための研修等の情報発信が不十分である。 ・長崎市版キャリア教育「長崎LOVERS育成プログラム」を推進することで、学習指導要領を踏まえた「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」の育成を目指すキャリア教育と長崎のまちを支える担い手の育成を図ることができた。 ・長崎の宝発見・発信事業や日吉自然の家での宿泊学習、長崎商業での職業講話などを通してキャリア教育の充実が図られている一方で、子ども達が体験する場、体験したことを生かしたりするキャリア教育の場が地域において十分であるとは言えない。

今後の方向性
<p>3 長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎のまちが持つ価値を多くの人々が認知し、まちづくり活動へ参加してもらうための取組みを強化することで、長崎を愛する心（シビックプライド）を高め、地域社会全体で個性の継承・活用に取り組む土台をつくる。 ・国際理解教育の充実のため、引き続きイベントやコンテスト、国際交流体験を実施するとともに、ALTの効果的な配置を行う。 ・外国人が暮らしやすい環境づくりと日本人も含めた多文化共生のまちづくりを更に進める。 ・国際性を豊かにするため、AIを活用し、より身近により気軽に国際交流できる環境整備、情報発信を行うことで、国際交流の機会を増やす。 ・貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題に対して世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育てる。
<p>4 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆の悲惨さを将来にわたって伝え続けるため、語り継ぐ「ひと」を育成する。 ・長崎大学等と連携し、平和のアピールができる人材を引き続き育成していく。 ・被爆継承への理解を深め、様々な視点から平和について考える人材を育成する。 ・スポーツ芸術や文化などを入口として、多くの市民が当事者として平和を考え、行動する機会づくりを進める。 ・被爆の実相に関する正しい理解と平和の意識を醸成するため、学齢に応じた平和教育を進める。
<p>5 地域を支え未来へつなぐひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災や防犯、交通安全に関しては、自分の安全は自分で守るという意識や地域で助けあう意識を高めるとともに、地域の様々な団体と連携した取組みを進める。 ・研修・講座の実施及び効果的な情報発信をすることで、まちづくりの担い手となる人材の掘り起こし及び育成を図る。 ・「未来のまちづくり」について考える場を設け、小中学生もまちづくりの主役であるという意識を育て、長崎市版キャリア教育「長崎LOVERS育成プログラム」を推進する。



6 第1期教育大綱の振り返り

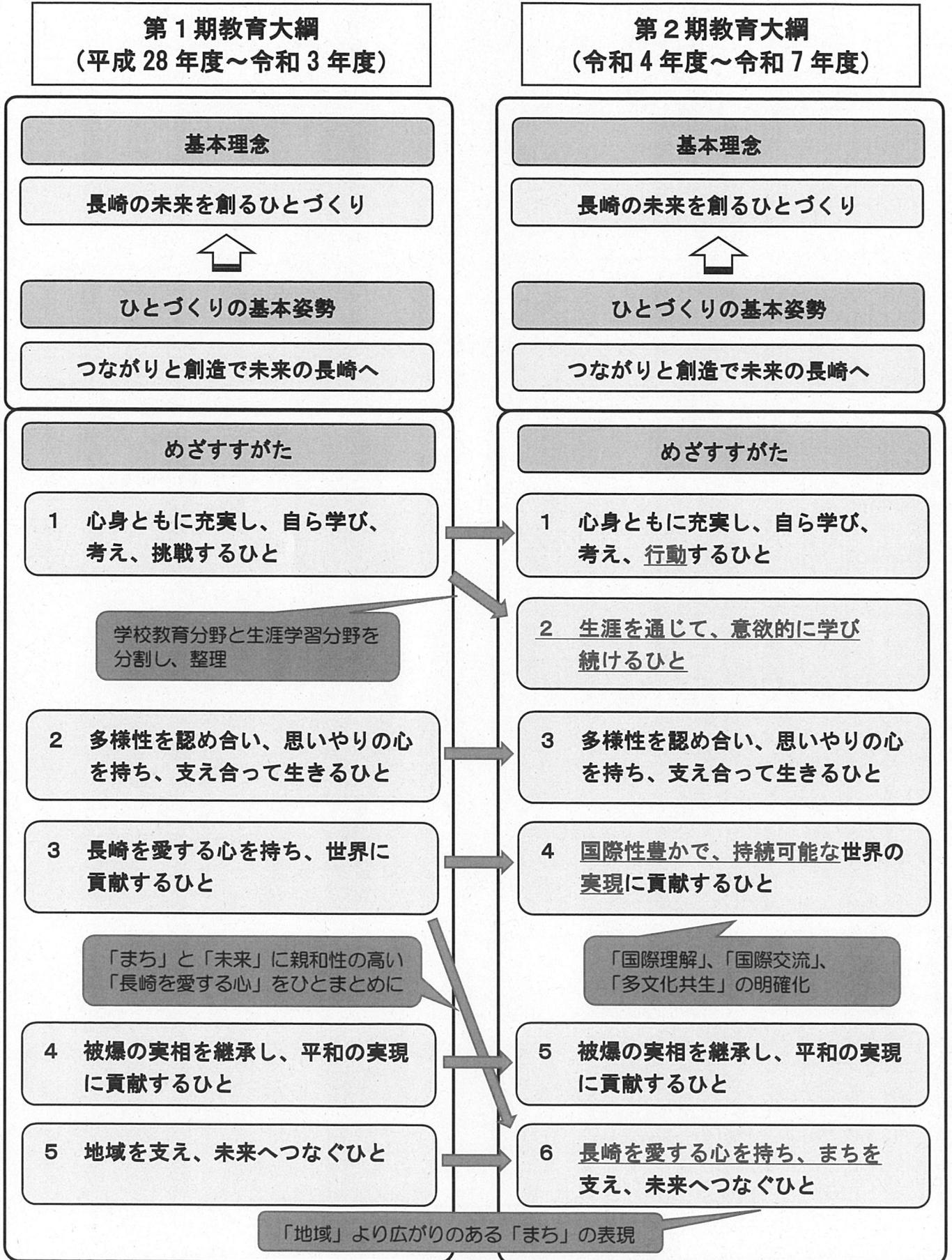
めざす姿別の振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の低減につながる様々な取組みにより、多くの市民に省エネやごみ減量など身近な環境行動の意識が広がりつつあるが、幅広い市民への浸透度はまだ十分とはいえない。 ・地球規模での気温上昇、干ばつなどの気候変動や災害の顕著化により市民にも地球温暖化問題に対する危機感が広がっている。 ・自然環境の整備・保全の取組みが進んでおり、市民の環境に関する意識向上につながっている。

今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・環境と調和した持続可能なまちの実現に向け、一人でも多くの市民が当事者意識を持ち、日常生活における環境に配慮した行動（エコライフ）につなげていくための取組みを進める。 ・市民や関係団体と連携し、自然環境保全に取り組むとともに、市内に存在する自然を活かし、多くの市民が自然や生物、多様性の価値、恩恵を学び、自然とふれあう機会の創出を図る。



時代の流れ	特に求められる視点
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子化・高齢化 ・Society5.0 ・コロナウイルス感染症 ・被爆者がいなくなる時代 ・核兵器廃絶、世界恒久平和に向けた役割を担う被爆都市長崎への期待の高まり ・持続可能な世界の実現（SDGs） ・気候変動（災害の激甚化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の質の向上（QOL） ・まちづくりの担い手の育成（キャリア教育） ・情報を活用する力 ・変化に対応する力 ・誰一人とりのこさない ・語り継ぐ「ひと」の育成 ・平和の発信 ・環境との調和（持続可能性） ・多様性

7 「基本理念」、「ひとづくりの基本姿勢」、「めざすすがたの柱 (大項目)」の比較



8 第2期教育大綱めざすすがたの考え方

第1期教育大綱	
1	心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと
	<p>社会環境が大きく変化し、複雑化、高度化する中、これからの社会を生きぬくためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。</p> <p>また、幼児期から生涯を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、夢や希望に向かって挑戦する力や、自分で課題を見つけ、自分で解決する力を育む必要があります。</p> <p>(1) 基礎的な知識・技能や、それを応用するための思考力・判断力・表現力、主体的に学ぼうとする学習意欲を身に付けたひとを育てます。</p> <p>(2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。</p> <p>(3) 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出せるひとを育てます。</p> <p>(4) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。</p> <p>(5) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。</p>

第2期のめざすすがたの考え方 ・キーワード（時代の流れ、特に求められる視点）	
	<p>【柱（大項目）の考え方】</p> <p>○「確かな学力」を身に付けるひとづくり</p> <p>○「豊かな心や体力」を身に付けるひとづくり （個人の成長、学校教育部分）</p> <p>【取り入れるべきキーワード】 《時代や社会状況の変化》</p> <p>○子どもの貧困</p> <p>○ヤングケアラー</p> <p>○教育のICT化</p> <p>○Society5.0</p> <p>《特に求められる視点》</p> <p>○誰一人取り残さない</p> <p>○情報を活用する力</p>

第2期教育大綱	
1	心身ともに充実し、自ら学び、考え、<u>行動挑戦</u>するひと
	<p>社会環境が大きく変化し、複雑化、高度化する中<u>にあっても変わらない価値として、これからの社会を生きぬくためには</u>、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。</p> <p>また、幼児期からの<u>教育生涯</u>を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、夢や希望に向かって挑戦する力や自分で課題を見つけ、<u>自ら学び、主体的に判断・行動し</u>、自分で解決する力を育む必要があります。</p> <p>(1) <u>習得した基礎的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要なや、それを応用するための思考力・判断力・表現力及び、主体的に学習に取り組む態度学ぼうとする学習意欲</u>を身に付けたひとを育てます。</p> <p>(2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。</p> <p>(3) 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出せるひとを育てます。</p> <p><u>(4) Society5.0を見据え、ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを育てます。</u></p> <p><u>(5) 家庭の社会経済的な背景や、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、安全・安心に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育てます。</u></p> <p>(4) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。</p> <p>(5) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。</p>

※朱書き部分は第1期からの変更部分

8 第2期教育大綱めざすすがたの考え方

第1期教育大綱	第2期のめざすすがたの考え方 ・キーワード（時代の流れ、特に求められる視点）	第2期教育大綱
	<p>【柱（大項目）の考え方】 ○生涯を通じていきいきと学び、楽しむことができるひとづくり。 ○社会の変化に対応し、新たなことを学び、知識を再構築するなどして、「新たな価値」を創造するひとづくり。 （個人の成長、生涯教育部分）</p> <p>【取り入れるべきキーワード】 《時代や社会状況の変化》 ○Society5.0</p> <p>《特に求められる視点》 ○生涯を通じて学び続ける、新しいことを学び始める（リカレント教育） ○情報を活用する力 ○変化に対応する力</p>	<p>2 生涯を通じて、意欲的に学び続けるひと</p> <p><u>テクノロジーの発展や新型コロナウイルス感染症の流行による価値観の変容などを背景に、今後、社会経済が劇的に変化していくことが予想されるなか、そのような変化の時代を力強く生き抜いていくための能力を身につける必要があります。新たなことを学び続けるとともに、誰もが生涯を通じていきいきと学び続けられるよう、学びの環境を整える必要があります。</u></p> <p><u>(1) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。</u></p> <p><u>(2) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。</u></p> <p><u>(3) 刻々と変化する社会に対応し、必要となる新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを育てます。</u></p>
<p>2 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと</p> <p>ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方を持った人と関わる機会が数多くあることから、一人ひとりがお互いを認め合うことにより、人と人が絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。</p> <p>(1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを育てます。</p> <p>(2) 自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。</p> <p>(3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。</p>	<p>【柱（大項目）の考え方】 ○多様性を尊重し、思いやりとやさしさを持つひとづくり （他者との関わり方）</p> <p>【取り入れるべきキーワード】 《時代や社会状況の変化》 ○（新型コロナウイルス感染症関連の差別やSNSによる誹謗中傷など）人権意識の高まり</p> <p>《特に求められる視点》 ○多様性 ○誰一人取り残さない</p>	<p>3 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと</p> <p>ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方を持った人と関わる機会が数多くあることから、一人ひとりがお互いを認め合うことにより、人と人との絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。</p> <p>(1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを育てます。</p> <p>(2) <u>人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的指向など</u>自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。</p> <p>(3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。</p>

※朱書き部分は第1期からの変更部分

8 第2期教育大綱めざすすがたの考え方

第1期教育大綱	
3	<p>長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと</p> <p>海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。</p> <p>また、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、長崎にしかできない役割を果たすことで、日本はもとより、世界に貢献していくことが必要となります。</p> <p>(1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。</p> <p>(2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。</p> <p>(3) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。</p>
4	<p>被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと</p> <p>原爆被爆から70年が経過し、被爆者が減少する中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。</p> <p>また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。</p> <p>(1) 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。</p> <p>(2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。</p> <p>(3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。</p>

第2期のめざすすがたの考え方 ・キーワード（時代の流れ、特に求められる視点）	
【柱（大項目）の考え方】	<p>○異文化に対する関心・理解を深めるためのひとづくり</p> <p>○様々な分野での交流により世界をつなぐ役割を果たし、持続可能な世界の実現に貢献するひとづくり。 （長崎の特性として、国際性をテーマとする。）</p> <p>【取り入れるべきキーワード】</p> <p>《時代や社会状況の変化》</p> <p>○異文化に対する関心・理解を深めるための機会の設定</p> <p>○SDGs（持続可能な世界の実現）</p> <p>《特に求められる視点》</p> <p>○国際理解、国際交流</p> <p>○多文化共生</p>
【柱（大項目）の考え方】	<p>○次世代に被爆の実相や平和への想いを伝えるひとづくり</p> <p>○新たな手法による被爆の実相の継承と平和の発信に関わることができるひとづくり</p> <p>○日常の中に平和の文化を根付かせるひとづくり</p> <p>【取り入れるべきキーワード】</p> <p>《時代や社会状況の変化》</p> <p>○被爆者がいなくなる時代</p> <p>○核兵器廃絶、世界恒久平和に向けた役割を担う被爆都市長崎への期待の高まり</p> <p>《特に求められる視点》</p> <p>○語り継ぐ「ひと」の育成</p> <p>○平和をつくる「ひと」の育成</p>

第2期教育大綱	
4	<p>国際性豊かで長崎を愛する心を持ち、持続可能な世界の実現に貢献するひと</p> <p>海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。</p> <p>また、社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、 <u>貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローバルな視点を持つことが必要となります。</u> 長崎にしかできない役割を果たすことで、日本はもとより、世界に貢献していくことが必要となります。</p> <p>(1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。</p> <p>(1) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。</p> <p>(2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。</p> <p><u>(3) 世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育てます</u></p>
5	<p>被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと</p> <p>原爆被爆から 70<u>75</u>年が経過し、被爆者の いなくなる時代が現実となりつつあるが減少する中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。</p> <p>また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。</p> <p>(1) 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。</p> <p>(2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。</p> <p>(3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。</p>

※朱書き部分は第1期からの変更部分

8 第2期教育大綱めざすすがたの考え方

第1期教育大綱
<p>(4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます</p>
5 地域を支え、未来へつなぐひと
<p>人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域を支える人材の育成が不可欠です。</p> <p>地域で育まれた一人ひとりが、自ら地域を支えとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。</p> <p>(1) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にすることを育てます。</p> <p>(2) 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。</p> <p>(3) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。</p>

第2期のめざすすがたの考え方 ・キーワード（時代の流れ、特に求められる視点）
<p>○平和の文化の醸成</p>
【柱（大項目）の考え方】
<p>○地域の魅力を愛するひとづくり</p> <p>○自分の安全は自分で守るという意識や、地域で助け合う意識を持つひとづくり</p> <p>○「地域と産業を支える」ために、地域と産業に貢献するひとづくり。 (長崎を愛する心を持つひとを育てることが、地域と産業を担う人材を育てることにつながる。)</p>
【踏まえるべきべきキーワード】
<p>《時代や社会状況の変化》</p> <p>○歴史文化遺産保全の機運の高まり</p> <p>○DMO、出島メッセ長崎の開業、松が枝の整備進展</p> <p>○気候変動（災害の激甚化）</p>
<p>《特に求められる視点》</p> <p>○魅力の発信と充実と更なる資源磨き</p> <p>○キャリア教育</p> <p>○当事者</p>

第2期教育大綱
<p>(4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。</p> <p><u>(5) 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育てます。</u></p>
6 <u>長崎を愛する心を持ち、まち地域を支え、未来へつなぐひと</u>
<p><u>海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。</u></p> <p><u>また、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。</u></p> <p>地域で育まれた一人ひとりが、<u>当事者意識を持って、地域で助け合う意識を高めることで、</u>自ら地域を支えとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。</p> <p><u>(1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。</u></p> <p><u>(2)(1) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にすることを育てます。</u></p> <p><u>(3)(2) 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。</u></p> <p><u>(4) 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを育てます。</u></p> <p><u>(5)(3) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。</u></p>

※朱書き部分は第1期からの変更部分